

社会科学学習指導案

指導者 新井 綱人
対象学級 5年1組
場 所 5年教室

単元名 「工業の今と未来」

単元の考察

1 児童の実態

(1) 社会的事象への関心・意欲・態度

半数以上の児童が、社会科の学習に興味をもっており、意欲的に学習に参加できる。自分の考えを発言することにも意欲的である。総合的な学習の時間において、日本の47都道府県から好きな県を選択して特色を調べる学習を行った経験があるため、多くの児童が地図帳を見ているいろいろな県について知ることに関心をもっている。こうした児童の興味・関心を生かし、児童の知的好奇心を刺激する活動を設定することができれば、さらに意欲的で深まりのある学習が期待できる。

(2) 社会的事象への思考・判断

農業で働く人が減少している背景や要因を考える場面で、「もうからない」という経営面での考えや、「他の職業に就く人が増えた」という社会的背景についての考えをもつことができる児童がいる。米の生産量や消費量の減少を、麺やパンなど消費者の嗜好の多様化にあると考えられる児童もいる。こうした児童を生かして、考えを交流する場を設定することにより、他の児童が考える手掛かりにもなると思われる。また、考える視点を複数もたせることができれば、社会的事象を多面的にとらえることにつながると考えられる。

(3) 社会的事象への技能・表現

グラフや統計資料を読み取る学習において、大まかに特徴を読み取ることはできる。グラフを細かく丁寧に読み取る学習を設定することにより、さらに資料を読み取る能力を高めていけると考えられる。地図帳の活用については、索引を使って位置を調べることや統計資料を調べることに慣れてきており、地図帳の活用技能は着実に付いてきている。さらに、資料活用の技能を高めるために、地図帳の情報を利用して課題を解決していく学習の場を作っていくことが大切だと考えられる。

(4) 社会的事象への知識・理解

都道府県名の位置と名称がどの程度把握できているか、事前にテストを行った。47都道府県のうち40以上正確に答えられた児童が16名中3名、10以下は2名、平均は約21都道府県だった。この結果の背景には、日頃から地図や国土の構成に興味をもって、地図帳に親しんでいるかどうかで個人差が大きいことがあるのではないかと思う。また、地図帳に親しんでいたとしても、位置情報とその他の情報を関連付けて理解できているかどうかという問題も考えられる。授業の中で地図帳を活用する場面を意図的に設定し、位置情報とその他の情報を関連付けて理解できるような学習を工夫していくことが大切である。

2 教材観

本単元は、小学校学習指導要領第5学年の内容(2)イにかかわる学習である。「我が国の各種の工業生産や工業地域の分布など」を調べることを対象としている。我が国で生産されている工業製品の主な種類別の生産額などを調べたり、主な工業地域の分布や立地などを調べたりして、我が国全体の工業生産の現状や特色をとらえられるようにする学習である。

工業地域の分布を調べる学習では、石油化学工場とIC工場の分布を取り上げる。この二つの工場は立地条件が異なり、分布の特徴を比較して捉えることに適している。この石油化学工場とIC工場の分布図を児童自身が地図帳で調べながら作成をすることを通して、地図に親しみ、地図に関する知識や技能を身に付けていくことができる。そして、この二つの分布図を比較しながら「なぜそのような違いが見られるのか?」という疑問を引き出し、分布の背景や要因を考える学習へとつなげていくことができる。

分布の背景や要因を考えるためには、交通の便や原材料の入手し易さ、大消費地との関係など様々な視点を持つことが必要となる。その視点を見付ける手だてとして、本単元では透明な主題図シートを活用する。これは、OHPシートで作成した日本の白地図に、地図帳から取り出した情報を表したものである。1枚のシートに1つの情報を載せることで児童が情報を読み取りやすいようにする。工場の分布の背景や要因について地図帳を使って調べると同時に、自分で作成した工場の分布図の上に、様々な種類の透明な主題図シ-

トを重ねることにより、相互の関連を考える場を作ることができる。その後、自分で選択した工場の立地を地図帳で調べながら考えるシミュレーションを取り入れることにより、児童がそれまでに学習した工場の分布についての見方や考え方を活用して、複数の視点から工場の立地条件を考えることができる。こうした活動により、工業生産のしくみについての理解を深め、学習内容を定着させることも期待できる。

このように、様々な視点から考える学習を通して我が国全体の工業生産の現状や特色をとらえられるようにすることで、多面的に思考できる児童を育成していきたいと考える。

3 指導方針

(1) 単元の導入において

- ・工場に対するイメージをもてるようにするために、身の回りにある工業製品を取り上げて、写真カードにして提示する。そして、それを仲間分けすることを通して、化学工業や機械工業、せんい工業など種類別の工業をイメージできるようにする。
- ・工場の分布で特徴的なIC工場と石油化学工場を比較することで、それぞれの分布の特徴をとらえられるようにする。

(2) 習得する過程において

- ・地図帳に親しむと共に、地図に関する知識や技能を身に付けられるようにするために、IC工場と石油化学工場の分布図を、児童自身が地図帳で調べながら作成するようにする。その際に、視聴覚資料などを活用しながら、ICとは何か、石油化学とは何か理解できるようにしておく。
- ・工場の分布の背景や要因を考える視点を得るために、透明な白地図シート一枚に地図帳から取り出した高速道路網や空港の位置、百万都市の分布などの一つの情報を示した主題図シートを数種類作成し、児童自身が取捨選択して使用できるようにする。
- ・工場の分布の背景や要因を考えるために、透明な主題図シートを児童自身が取捨選択をして重ねることを基本としながらも、児童個々の実態に応じて、教師が関連のあるシートを重ねて提示するなどして、個別に支援するようにする。
- ・生産性の低さを特徴とする中小工場に対する児童のマイナスイメージを揺さぶり、知的な好奇心を刺激するために、世界的な技術を誇る中小工場の例を写真資料を用いながら紹介する。

(3) 活用する過程において

- ・本単元で学習した工場立地についての考え方や地図帳の活用技能を生かして、学習内容を定着させたり思考を深めたりするために、選択肢の中から自分で選んだ工場の立地をシミュレーションする学習を取り入れる。交通の便や原材料の入手しやすさなどを考えながら、地図帳を使って最適な場所を選び、透明な白地図シートに表現できるようにする。
- ・児童が白地図シートに表現した自分の工場の立地をOHPで紹介し合い、評価カードを使って相互評価できるようにする。
- ・現実にあるその種類の工場の位置を紹介し、自分が決定した位置と比較ができるようにするとともに、工場の立地に関する学習のまとめができるようにする。

(4) 教材・教具の工夫として

- ・地図帳の内容のまとまりごとに「東北地方」「関東地方」「統計資料」「さくいん」などを記したインデックスシールを貼るなどして、地図帳を使うことに慣れていない児童でも使いやすいようにする。
- ・シミュレーションをする際に、地図帳の統計資料だけではデータが乏しかったり古かったりするので、地図帳とは別の統計資料を用意して利用できるようにする。

目標と評価規準

1 目標

工業が盛んな地域の立地の背景や要因、大工場と中小工場での生産の違いについて調べ、日本の工業の特色をとらえる。
工場立地の考え方や地図帳を初めとする資料活用の技能を生かして、工場の立地やこれからの工場生産の在り方を考え、図や文章で説明できる。

2 評価規準

社会的事象への関心・意欲・態度	身の回りにある様々な種類の工業製品について興味をもち、日本の工業について進んで調べようとしている。
社会的な思考・判断	工場の分布の背景や要因を、交通の便や原料の入手しやすさ、人口などの視点から考えることができる。
観察・資料活用の技能・表現	グラフや統計資料、地図資料等から情報を読み取り、白地図などに表現することができる。
社会的事象についての知識・理解	日本の工業生産は、高い技術力を持つ多くの中小工場のはたらきによって支えられていることが分かる。

本時の授業展開

第 1 時 (本時は 1 / 6)

1 . ねらい

- ・身の回りにある工業製品を、機械工業、化学工業、金属工業、食料品工業、せんい工業、その他の工業というように、種類ごとに分類することができる。
- ・「石油化学工場」と「IC工場」の2枚の写真を比較して、立地している場所の違いを読み取ることができる。

2 . 準備

工業製品の写真カード(黒板掲示用大サイズ1セット、グループ用小サイズ4セット)
「石油化学工場」と「IC工場」の画像データ、ノートパソコン、プロジェクター、スクリーン、ワークシート

3 . 展開 ~~~ 内は学習のめあてとして、黒板に掲示する。

過程	学習活動「主な発問」	時間	指導・支援及び留意点	評価項目(方法)【観点】
単元の導入	1 . 工業製品についてのイメージをつかみ、本時のめあてを理解する。 身の回りにある工業製品について調べてみよう! 「工業製品の仲間分けをしよう!」	10	・工業製品の写真を提示しながら何であるかを確認して、本時のめあてへとつなげる。	自分なりの視点にしたがって、進んで工業製品を分類しようとしている。 (グループでの話し合い活動の観察) 【関・意・態】
	2 . 身の回りにある工業製品を、自分なりの視点で仲間分けしてみる。 《児童がもつ視点として考えられること》 ・食べられる物かどうか。 ・身に付ける物かどうか。 ・重いか軽いか。 ・堅いか柔らかいか。 ・金属かプラスチックか木か。 ・電気が必要かどうか。		・工業製品を作っている場所が工場であることを確認する。 ・工場で工業製品を作ること工業とすることを確認する。 ・工業製品の仲間分けを考えられるよう、工業製品の写真を複数黒板に提示する。 ・次時以降につながる視点として児童の持った視点をまとめ、提示できるようにしておく。	
	3 . 4人1組のグループになり、自分の考えを発表し合い、グループとしての考えをまとめて発表する。	8	・グループのリーダーを指名し、リーダーから順に自分の考えを発表した後に、グループ全体としての考えをまとめるように指示をする。	
	4 . 工業製品は、主に、機械工業、化学工業、金属工業、食料品工業、せんい工業、その他の工業に分類することができることを知る。	5	・左のような仲間分けがグループから出てこなかった場合には、教師が説明をする。	
つかむ	5 . 工場の立地に疑問や興味をもち、次時のめあてをもち。 「2枚の工場の写真を比べて、違うところを発表しよう。」 《予想される児童の発表》 (石油化学工場は) ・海の近くにある。 ・都会にある。 ・煙が出ている。 ・鉄塔がある。 ・丸い建物がある。 (IC工場は) ・海から遠い。 ・町から離れている。 ・周りに緑が多い。 ・建物が石油化学工場より小さい。	20	・「A工場(石油化学工場)」と「B工場(IC工場)」の2枚の写真をプロジェクターで提示する。	2枚の写真の比較から、立地の違いに気付いて読み取っている。 (児童の観察・ワークシート記述の分析) 【思考・判断】
追究する			・写真入りワークシートを配り、気付いた違いを記入できるようにする。 ・3つ記入できたら教師のところへ来るように指示し、個別に評価をする。 ・早く記入出来た児童が板書するようにして、つまずいている児童の参考になるようにする。 ・活動が進んでいる児童には何を作っている工場か考えることを促す。	
広げる	「工場はどこに作るのがよいのだろうか?」 ・発問に対する予想を立てて、次時の学習のめあてをもち。	2	・上記の発問をすることで、次時のめあてである「工場を作るときのヒミツにせまろう」へつなげる。	

第2・3時（本時は2 / 6 ~ 3 / 6）

1. ねらい

- ・工場の分布について地図帳を活用して調べ、白地図に表すことができる。
- ・工場の立地は、貿易や運輸、地形等の様々な条件と関連して成り立っていることを考え、理解することができる。

2. 準備

透明な白地図シート、OHP専用ペン6色セット（2人に1セットずつ配付）、
透明な主題図シート（人口100万人以上の都市、人口密度、平野、川、山地・山脈、
高速道路網、商港、空港、自動車工場の9種：9種を1セットとして各グループに配付）、
IC工場と石油化学工場の写真と分布図、ノートパソコン、プロジェクター、
IC工場と石油化学工場に関するプレゼンテーション資料、スクリーン、OHP、
第1時で使用した工業製品の写真カード、ワークシート

3. 展開

過程	学習活動「主な発問」	時間	指導・支援及び留意点	評価項目（方法）【観点】
つ か む	1. 前時の学習を振り返り、本時のめあてを理解する。 ・教師の説明を聞き、ICと石油化学について理解する。	10	・石油化学工場とIC工場について、前時に提示した2枚の写真や第1時で使用した化学製品やICを使用している機械製品の写真カードを提示しながら説明をし、本時のめあてへつなげる。	地図帳から情報を読み取り、透明な白地図シートに工場の位置を表している。 (児童の観察・白地図の分析) 【技能・表現】
	<p style="text-align: center;">~~~~~ 工場を作るときのヒミツにせまろう！ ~~~~~</p> <p>「工場はどこにあるのか調べて白地図に表してみよう！」</p> <p>2. 二人一組のグループに分かれて、次の2つの工場から1人1つずつ選択し、地図帳を使って工場の分布を調べ、透明シートな白地図シートに表す。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>A. 石油化学工場</p> <p>B. IC工場</p> </div> <p>・地図帳の見方や調べ方が分からない場合は、グループのメンバーに教えてもらいながら進める。</p> <p>・工場の位置を発表し合い、正しい位置を確認する。</p>	35	<p>・各グループで相談し、AとBの工場から一人一つずつ選択することで、協力し合いながらグループとして二つ両方の工場の分布を調べられるようにする。</p> <p>・グループで助け合って調べて良いことを伝える。</p> <p>・透明な白地図シートを準備し、そこに工場の位置を描き示すことで、完成したそれぞれの工場の分布図を重ねたり並べたりして、違いを見ることができるようになる。</p> <p>・正しい工場の位置をプロジェクター等で示しながら、児童が確認できるようにする。</p>	
	<p>「工場はどんな場所に作られているのかな？」</p> <p>3. 白地図にまとめた工場の分布を見て、特徴をつかむ。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>・石油化学工場...太平洋側の海沿いに多い。</p> <p>・IC工場...日本全国に散らばっている。</p> </div>	5	<p>・自分たちでまとめた工場の分布図を並べたり重ねたりして比べ、気付いたことを発表する場を作る。</p> <p>・児童から気付きが出てこない場合は、プロジェクターで提示し、「どんな所に多いか」など視点を与えながら、全体で考える場を作る。</p>	分布の背景や要因を、地図帳で調べたり透明な
	<p>「どうしてそこに集まっているのかな？」</p> <p>4. どうしてそこに工場が集まっていたり散らばっていたりするのか、工場の立地の背景</p>		<p>・第1時の導入において児童がもった視点を提示しながら、例えば、製品が重くて大きい</p>	

<p>追 究 す る</p>	<p>や要因を予想し、地図帳を調べたり、透明な主題図シートを重ねたりしながら考え、ワークシートに記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに工場の立地の背景や要因の考えが書けたら教師の所へ行き、指導・助言を受ける。 ・個々の能力に応じて、透明な主題図シートを活用しながら、自分の考えを検証したり考える視点を得るヒントとしていく。 <p>《とらえてほしい背景や要因》</p> <p>石油化学工場</p> <p>…原料の石油を外国から輸入しているため、海沿いに立地している。</p> <p>製品の輸送に便利なので、高速道路の近くに位置している。人口の多い都市が集まる太平洋岸に位置している。</p> <p>ＩＣ工場</p> <p>…高速道路の近くに位置していて原料や製品の輸送に便利である。</p> <p>製品が軽くて値段が高いため飛行機で運ぶことが可能なため空港の近くに立地している。</p> <p>ＩＣは塵や埃を嫌うことと洗浄のためにきれいな水を大量に必要とするので、空気や水がきれいな土地が適している。</p>	<p>25</p> <p>とどのような点が大変か、製品が軽くて小さいとどのような点で楽か等児童に問いかけて工場立地の背景や要因についての予想を立てられるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口100万人以上の都市、平野、山地・山脈、高速道路網、商港、空港、自動車工場の位置など、5年生のこれまでの学習に関わる事項をそれぞれに示した透明な主題図シートを用意し、地図帳で調べたことの検証や考える視点を得るためのヒントとして重ね合わせられるようにする。 ・個々の児童の実態を見ながら、次のように支援を行う。 十分満足できる児童へ （地図帳を見ながら自力で調べ、自分なりの解答を出した後に透明な主題図シートで検証できるようにする。 おおむね満足できる児童へ （透明な主題図シートを活用しながら自分の考えをまとめるように助言する。 努力を要する児童へ （教師が関連する透明な主題図シートを重ねて見せ、そこから何がわかるかを問う。） ・透明な主題図シートの使い方が分からない様子が見られる場合には、「最初に関係がありそうなシートを探そう」と指示をする。 	<p>主題図シートを重ねたりしながら考えている。 （ワークシート記述や発言内容の分析） 【思考・判断】</p>
<p>広 げ る</p>	<p>5 . クラス全体で自分の考えを交流し合い、授業のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工場の立地には、交通（輸送のしやすさ）、人口（消費地への近さ）、原料（入手のしやすさ）三つの視点が大切であることを理解する。 ・工場の種類によっては、水や空気などの自然環境などの視点も大切になる場合があることを理解する。 ・日本の工業地域や工業地帯の位置と名称を知り、各工場の分布と重なることを確認する。 	<p>15</p> <ul style="list-style-type: none"> ・OHPを用意し、透明な主題図シートを重ねるなどして自分の考えを説明できるようにする。 ・とらえてほしい背景や要因をプロジェクターで示し、工場の立地の条件を理解しやすくする。 ・「工場がたくさん集まっている所を特別な呼び方をすると説明し、日本の工業地域や工業地帯の位置と名称を示したシートを石油化学工場やIC工場のシートに重ねてOHPで提示する。 	

第4時（本時は4 / 6）

1. ねらい

- ・大工場と中小工場の生産の違いについてグラフ資料から、それぞれの特色を読み取ることができる。
- ・中小工場が労働条件の問題などを抱えながらも高い技術力で日本の工業を支えていることを理解することができる。

2. 準備

「大工場」と「中小工場」の画像データ、日本の工業に関するグラフの画像データ、世界的な技術を誇る中小工場の製品を紹介する画像データ、ノートパソコン、プロジェクター、スクリーン、第1時で使用した工業製品の写真カード、ワークシート、ワークシート

3. 展開

過程	学習活動「主な発問」	時間	指導・支援及び留意点	評価項目（方法）【観点】
つかむ	1. 大工場と中小工場の二枚の写真と比較して、それぞれの工場のイメージをつかむ。 ~~~~~ 日本の工業を支えているものは何だろう？		・大工場と中小工場の規模や設備の違いに気付けるように、大工場と中小工場の写真を提示する。	
追	「次のグラフを見て、分かることは何だろう？」 2. 各種のグラフから分かることを読み取り、発表をする。 ・工場の規模別に見た工場数・働く人の数・生産額を表したグラフから分かることを読み取り、発表する。 《読み取って欲しい内容》	12	・工場の規模別に見た工場数・働く人の数・生産額を表したグラフを提示し、読み取ることができるようにする。 ・「日本には大きい工場が多いのか？小さい工場が多いのか？」と児童に問い、日本の工場は中小工場が大部分を占めていることをおさえる。 ・「工場数が少ないのに生産額が多いということはどういうことか？」と問い、機械化による大量生産を主とする大工場の生産性の高さを考えられるようにする。	グラフから情報を読み取ることができる。 (児童の観察、ワークシート記述の分析) 【技能・表現】
究	・日本の工場の99.4%は従業員数300人未満の中小工場である。 ・大工場は、0.6%の数しかないのに、そこで働く人の数の割合は25.9%と高い。 ・大工場は、0.6%の数しかないのに、生産額の割合は48.4%と高い。			
す	「中小工場ではどんな物を作っているのだろうか？」 《予想される児童の答え》		・第1時の導入において児童がもった視点や工業製品カードを提示しながら、中小工場に適した製品は何か児童に問い掛け児童が予想できるようにする。	
る	・機械で作れない手作りの物 ・重いと機械が必要なので、金属を使わない軽い物 ・食べ物 ・小さい物 ・各工業の生産額に占める中小			

	<p>工場の生産額のグラフから分かることを読み取り発表する。</p> <p>《読み取らせたい内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中小工場では、大工場に比べて、せんい・食料品などの軽工業の生産額の割合が多い。 <p>「自分が働くのなら大工場と中小工場のどちらが良いか？」</p> <p>《予想される児童の答え》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大工場・・・たくさん作れてもうかるので、お給料がよさそうだから。 ・中小工場・・・機械を動かすのではなく自分の手で作れて楽しそうだから。 	13	<ul style="list-style-type: none"> ・各工業の生産額に占める中小工場の生産額のグラフを提示し、読み取ることができるようにする。 ・大工場側からの見方をすると、大工場では、機械・化学・金属などの重化学工業の生産額が多いこともおさえる。 	
ま と め る	<p>4. 学習のまとめをし、日本の工場が優れた技術力を生かして今後も進むことを予想する。</p> <p>・「日本の中小工場は、」で始まる言葉で、ノートにまとめたり発表したりする。</p> <p>《確認すること》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロボットを使わずに人の手をかけて作る物が多いので、一度にたくさんの製品を作れない。(一人当たりの生産性が低い。) ・せんい・食料品などの軽工業の生産額の割合が多い。 ・大工場では作れない優れた技術をもち、世界に誇れる製品を生産している所も多い。 ・大工場の関連工場として、大工場で組み立てる部品を作る所が多い。それなので、大工場の影響を受けやすい。 ・日本の工業生産は、多くの中小工場の働きによって成り立っている。 	5	<ul style="list-style-type: none"> ・上記の発問をし、そう考える理由も問うことで、中小工場と大工場の特色を踏まえ、自分なりの考えを持てるようにする。 	<p>多くの中小工場の働きと高い技術力によって日本の工業が支えられていることを理解している。</p> <p>(ノートの記述や発言内容の分析)</p> <p>【知識・理解】</p>
		15	<ul style="list-style-type: none"> ・世界的な技術を誇る中小工場の例を紹介し、中小工場はもうからない、つぶれやすいなどの児童がもつと予想されるマイナスイメージを揺さぶる。 <p>《紹介する中小工場の製品》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・痛くない注射針 ・メダル独占の砲丸 ・安全な缶詰のふた ・世界最小歯車 ・寿司握りロボット ・偽札鑑別器 ・手術用顕微鏡 ・建物解体機 ・蛍光塗料 <ul style="list-style-type: none"> ・「日本の中小工場は、」の言葉で始まるように本時の学習をまとめて発表する場を作り、お互いの考えを交流できるようにする。 ・前単元の学習内容も踏まえて中小工場の特色を理解しやすいように、要点をプロジェクターで提示し、児童が読んで確認できるようにする。 	

第5・6時（本時は5 / 6 ~ 6 / 6）

1. ねらい

- ・これまでの学習で得た工場分布の見方や考え方を生かして、自分で未来の工場を想定し、その工場の立地や工業生産の在り方を考えることができる。
- ・白地図に自分で選択した工場の位置を示すと同時に、その位置を選んだ理由も図や言葉で表現し、まとめることができる。

2. 準備

シミュレーション用透明な白地図シート、透明な主題図シート（人口100万人以上の都市、人口密度、平野、川、山地・山脈、高速道路網、商港、空港、自動車工場の9種）、農業品目別都道府県ランキングが分かる統計資料、OHP、OHP専用ペン6色セット（二人に1セットずつ配布）、ワークシート（シミュレーション用シート）、ワークシート（発表用シート）、ワークシート（相互評価用シート）、ノートパソコン、プロジェクター、スクリーンシミュレーションの手順を示すプレゼンテーション資料、実際にある各種企業の工場所在地を示すプレゼンテーション資料
6つの工業製品（野球グラブ、飛行機の模型、ジャム、ポテトチップス、パン、ツナ缶）

3. 展開

過程	学習活動「主な発問」	時間	指導・支援及び留意点	評価項目(方法)【観点】
つかむ	1. 本時のめあてをつかむ。 未来の日本の工業を考えて、自分の工場を作ってみよう！ 「自分が会社の社長だとしたら日本のどこにどんな工場を作るかな？」		・本時のめあてを提示する。	
	2. これまで学習してきたことを活用して、自分で選択した工場を日本のどこに作るのか、これからの日本の工業に必要な人や環境に優しい視点も入れながらシミュレーションをする。 ・作りたい工場を次の六つの選択肢から選ぶ。 《工場の選択肢》 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・野球クラブ工場 ・飛行機工場 ・ジャム工場 ・ポテトチップス工場 ・パン工場 ・ツナ缶詰工場 </div> ・ワークシートに自分が選択し	45	・プロジェクターを使って、工場立地のシミュレーションをする手順を例示する。 ・児童に工場の選択肢を提示し、その中から作りたい工場を選べるようにする。その際に、なるべく分散するように、黒板にネームカードをはるなどして、選択状況を児童が分かるようにする。 ・工業立地を考える手掛かりとなるように、考える視点を示したワークシートを準備する。 《考える視点》 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・何を作るのか？ ・原材料は何か？ ・どんな地形がよいのか？ ・製品は重い？軽い？ ・何で運ぶのか？ ・働く人はどのくらい必要か？ </div>	
追究する				工場の立地について、複数の視点から考えている。 (児童の観察と、ワークシート記述の分析) 【思考・判断】

	<p>た工場の立地の条件を記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が選択した工場の条件を満たす位置を、地図帳を活用しながら調べる。 ・透明な主題図シートも活用し、自分の白地図に重ねながら考える。 ・決定した位置を透明な白地図シートに記入し、そこを選んだ理由も分かりやすく白地図に表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人や環境にやさしいポイントは？ ・自分の考えた条件を満たす位置について、地図帳を中心に使って調べるように指示をする。 ・第2～3時で活用した透明な主題図シートを用意し、重ねながらも考えられるように準備しておく。 ・早くできた児童には、1つだけでなく他の工場についてもシミュレーションするように指示をする。 ・表現が難しい児童には、友達の表現を参考にして良いことを助言する。 	
<p>広げ る</p>	<p>3．自分で考えた未来の工場について表現した透明な白地図シートをクラス全体で交流し合い、相互評価をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人前を出て、OHPを活用しながら、自分が選択した工場について、その場所に立地した理由や人や環境に優しいポイントを説明する。 ・それぞれ発表した内容について、良かった点や改善案を記入する。 <hr/> <p>4．実際にある各工場の位置と自分が決定した位置を比較しながら、学習のまとめをする。</p>	<p>35</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表の仕方を例示したワークシートを配布しておき、発表原稿が書けるようにする。 ・児童の作成した白地図を全員が見られるように、OHPを準備しておく。 ・前単元での学習を踏まえ、人や環境に優しい視点として特に優れているものを取り上げて、より深く考えられるようにする。 ・相互評価できるように、クラスの全児童名が入った評価シートを配付する。 <hr/> <p>10</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際にある各種の工場の位置を示した地図をOHPで示し、立地の背景や要因を補足説明する。 	<p>複数の視点から考えた条件を満たす場所を、地図帳などを活用しながら白地図に表現している。 (児童の観察と白地図の分析) 【技能・表現】</p>